

学力調査等の状況	
東京都の平均正答率と比較すると、3教科とも下回った。特に知識・技能面が平均を大きく下回る結果となった。意識調査では、人の話を最後まで聞こうとしている傾向が見られる反面、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表しようとする児童が少ないことも分かった。そして、国語よりも算数を好むという回答が多いという結果となった。	

見えてきた課題	
国語では、「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる力」が低い傾向が見られる。各学年において学級会の指導を充実させ、自分の主張をする機会を増やしていく。また、文章を読み取る活動では、要点を理解して文章を自分で再構築するなどの取り組みをしていく。算数では、「倍数と約数」「単位の換算」に課題が見られた。どちらも4年生段階までの四則演算と「水の量」「面積」「長さ」といった学習内容の定着が不十分であったと考えられる。各単元の指導の系統性を理解して、既習事項とのつながりを振り返らせるような指導をし、習熟を確かなものとしていく。	

授業をデザインする8つの取組について	
見通しをもたせる導入	めあての確認にとどまらず、学習の流れを示すことで見通しを持たせる。また、具体的な資料提示や問いかけなどの工夫をすることで、学習意欲を高めさせる。
価値ある対話の共有	友達との意見交流では、目的に応じて話し合いの形態を工夫する。多様な見方・考え方を働かせ、自分とは違う意見について話し合うことの楽しさを味わわせる。
ICT機器の活用	Chromebookを使用する機会を質的・量的に向上させる。協働的な学びや、意見の集約・比較にも活用させ、児童がICT活用の良さを感じられるよう指導する。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字学習や小テスト、基本的な言語知識獲得のための授業を行い、文章の読み取りに生かす。 ○児童が読む力をさらに高めるとともに、自分の考えを進んで表現できる活動を充実させる。 ○学年に応じて、説明文の適切な読み方ができるように指導する。既習事項を確かめながら、児童自身が自分の身に付けるべき読み方を理解して学習に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1行日記を書くなどの学習活動を通して、書くことに親しみながら、書く力をつけている。 ○文字や言葉の習得する際、様々な活用例があることを提示しながら語彙の獲得につなげる。 ○毎週図書時間をとり、読み聞かせやブックトークなど児童へ読書の楽しさを伝える。 ○文法や表記の決まりなど、国語の基本を確実に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語辞典や漢字辞典を活用しながら、言語知識や語彙を獲得させる。 ○言葉に着目しながら、正しく文章の読む力を身に付けさせる。 ○読書に親しんだり、自分の考えを進んで表現したりする活動を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国語の文法について普段の文章読解に意図的に組み込み、習熟を図る。 ○漢字については音読み訓読み両方が身に付けられるよう、練習方法を工夫していく。 ○読解指導では、大切な言葉や文章を見付けるにとどまらず、それらを用いて自分で再構築しながら筆者の意図を述べるなど文章を書く活動を並行して行っていく。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ○日頃の授業で、資料やグラフを読み取ることを意識した授業を行い、読み取る力を育てる。 ○体験活動から学んだことと、社会的事象や言語への理解の定着を図る。 ○グループやペアでの話し合いが活発になるように課題を吟味し、進んで表現しようとする力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> (中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○自分と身近な人々や社会に気付き、愛着をもって行動していく意識を育むと同時に、学習の中で気付きや疑問をもてるようにしていく。 ○気付きや疑問を表現する方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料やグラフを読み取ることを意識し、資料集やChromebookを活用して調べる資料を精選し、読み取る力を育てる。 ○体験活動から学んだことを他教科と関連させながら、社会的事象や言語への理解の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料やグラフを読み取ることを意識し、資料集やChromebookを活用して調べる資料を精選し、読み取る力を育てる。 ○比較したり関連付けたりして、考えたことを文章に表す機会を充実させる。 ○全体で話し合う場において、課題についての考えの理由や背景を推論しながら学習していける場を多く設ける。
算数科	<ul style="list-style-type: none"> ○計算ドリルやプリントを通し、基礎・基本的な知識・技能の徹底を図る。児童の実態を把握し、苦手な分野を集中して取り組ませる。 ○問題の内容理解を促すため、図や□を使った式で表すなど、解決までの道筋が分かるよう指導を工夫する。 ○どの単元でも、問題解決型学習を実施し、問題を自力解決し、協働的に解決するという過程から、主体的に取り組めるようにする。 ○どの単元でも協働的探究学習の形態を取り入れ、話し合いながら自分との相違や関連付けをしながら思考力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○かけ算までの基本的な計算技能を定着させる。繰り上がり・繰り下がりのあるたし算と引き算、かけ算九九の暗唱の習熟度を向上させる。 ○長い文章でも、問いの意味について理解させる。 ○ペアでの話し合いを重ね、誰とでも自分の考えを交流させられる素地を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○四則演算の定着率9割以上を目指す。オンラインドリルで習熟度を見とる。 ○「□を使った式」や、「表とグラフ」の読み取り、「小数」「分数」では、デジタル資料や具体物を用いて、理解を定着させる。 ○グループでの話し合いを取り入れ、考えを伝えるための話し方を身に付けるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○オンラインドリルで個別の習熟度を見取り、個の学習に応じた支援を行う。 ○生活場面に様々な活用ができることを意識させ、主体的に学習に取り組む態度を高める。 ○話し合いながら自分の考えと友達との考えとの相違や関連についてまとめる事ができるよう指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○生命・地球の領域では、全単元を通して観察・実験を行い、実感を伴った理解を図る。また、映像を副教材として提示して、時間による変化を捉えられるようにする。 ○物質・エネルギーの領域では、発展的な学習として、実験などの活動を増やし、自然の事象・事象についての理解を深める。また、実験用具を整え、充実した学習ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> (中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ○自分と身近な自然に気付き、愛着をもって行動していく意識を育むと同時に、学習の中で気付きや疑問をもてるようにしていく。 ○気付きや疑問を表現する方法を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験の基本的な技能を身に付けさせる。また、生物や地球・科学についての基礎的な知識を習得させる。 ○観察・実験が実感できるよう、個で取り組めるよう教材を確保し、実感を伴った理解を図る。また、映像を副教材として提示し、様々な事象の変化を捉えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○実験結果を表などに整理し、事実とその解釈の両方を整理して説明する授業展開していく。 →実験結果を表などに整理し、自身の考えを明確にした後、事実とその解釈の両方を整理して説明する授業展開をしていく。 ○映像による副教材を効果的に活用し、そこから事象の変化や習性を見つけていけるよう、ICTを活用していく。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生活科	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者や地域の支援を活用し、より多様で安全な体験活動を展開する。 ○体験の前後に意見交流を行い、自分の気付きや意見を人に伝える機会をつくる。 ○自ら見通しをもち、振り返ることができる活動を積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生き物に触れる場が少ないので、昆虫や両生・爬虫類で代用し、きつねくぼなどの地域自然を利用して生き物に優しく接する態度を育てる。 ○自分の身近な人々や自然、社会との関わりを通して、そのよさに気付くことができる。また、それを楽しんだりよりよくしようと工夫したりできるようにする。 		
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> ○ペアやグループでの活動を重視し、歌唱、楽器演奏や鑑賞などの課題を協働的に解決できるようにする。 ○音楽を聴いて感じたことや演奏の工夫などを自分なりの言葉で表現するなど、言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌を楽しく歌えるために児童がよく知っている曲を歌い、意欲を高める。 ○身体表現を通して、リズムにのることを楽しめる工夫を取り入れる。 ○鍵盤ハーモニカの指より、タンギングを身に付けるように反復して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱や器楽などの表現を高めたり鑑賞を深めたりするために、ペアやグループで協働的に課題を解決する活動を充実させる。その際、段階的に具体的な課題を取り入れ、児童自身が成長を感じられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○共通事項を使って、音楽を聴いて感じたことを表現する言語活動を導入していく。
図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○造形活動に対する思考力、判断力、表現力を育成するために、感じたことや考えたことを話したり聞いたり書いたりする言語活動を充実させる。 ○様々な用具の使い方や材料に触れる機会を多くつくり、より多様で自由な発想が発揮できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見付け、想像したものを形に表せるようにする。 ○すすんで活動できるように、目標を明確にして取り組むようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見付け、材料を生かして造形し、想像したものを形に表せるようにする。 ○すすんで活動できるように、目標を明確にして取り組むようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら課題を見付け、材料を生かして造形し、想像したものを形に表せるようにする。 ○すすんで活動できるように、目標を明確にして取り組むようにしている。 ○既習事項や優れた作品を参考にしながら、自分なりに工夫して表せるようにする。
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ○健康で豊かな衣食住生活に関する課題を自ら解決する力を養い、協同的な活動を通して日常生活で実践的な工夫を生み出そうとする態度を育てる。 			<ul style="list-style-type: none"> ○生活経験が少ない児童にもわかりやすく扱いやすい教材を選択する。 ○自立の素地を養うために、家庭での自分の役割がよくわかるように、家庭と連携し実践できる場を多く設ける。
体育科	<ul style="list-style-type: none"> ○町田ボールをボールゲームの起点と位置付け、その他のゴール型(ゲーム)の楽しさを存分に味わわせ、児童の日常的な運動量の増加を目指す。 ○どの運動領域においても、ペアやグループでの学習を行い、協同的に課題を解決する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しみながら取り組めるように安全についての指導を徹底する。またきまりを簡潔に提示することで、誰でも楽しめる運動遊びができるようにする。 ○スモールステップで達成できるように支援する。 ○授業の終わりの振り返りで、自分や友達の良さについて発表する機会を設け、思考を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを効果的に活用し、ペアやグループでの学習を行い、協働的に課題を解決する思考力を育てる。 ○良い動きの例を明確に示し、友達の良いところを伝えられる表現力を高める。 ○ICTを活用し、振り返りやまとめの意見交流を活発にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○グループやチームでの学習で、協働的に課題を解決するような目当てを設定する。 ○ICTを活用し、動画や写真を撮影して友達と比較したり話し合ったりすることで、より良い動きや友達との連携につながるよう指導する。 ○オリバラ教育と連動し、運動することの価値を学び、積極的に体を動かそうとする態度を育てる。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ○日常会話やスピーチを通して聞くこと、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育てる。 ○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じ、日常生活に関する身近で簡単な事柄や自分のことについて振り返る機会を設ける。 			<ul style="list-style-type: none"> ○親しみのあるアニメや身近なものを題材にして興味・関心をもたせる。 ○活動に応じてペアやグループなど集団を変化させて他者との関わりをもち、様々な意見に触れる機会を増やすとともに相互理解を図る。 ○発表活動において、パワーポイント等で作成した写真やイラストを用いることで、表現の幅が広がり、伝える楽しさを実感させる。

⑮-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学習の時間	○「課題設定・情報収集・整理分析・まとめ、表現」のサイクルを重視して学習を構成し、その学び方を他教科にも広く生かせるよう取り組む。		○課題設定の際に、学校図書を活用して、予備知識を提示したり予想を立てたりする。 ○調べる項目を提示し、見通しをもたせることで、情報を比較することを重点とする。	○タブレット端末を活用し、書くことが苦手な児童も情報を記録し、蓄積できるようにする。 ○スライドを作成し、効果的にプレゼンテーションができるように操作の時間を充実させる。
特別の教科 道徳	○登場人物の心情を話し合うことを通して、ねらいとする道徳的価値に触れることができるようにする。 ○自分の生活を振り返り、自身の在り方を考える。	○動作化や役割演技を通して、自我関与できる場面を多く設ける。 ○振り返りの時間を確保し、友達の思いや考えを聞いて、新たな考えに触れる。	○毎時間自身の生活を振り返る時間を確保し、22項目の道徳的価値に触れる。ふれあい月間に友情、信頼の授業を行い、本校道徳教育の重点を保護者に周知する。	○登場人物の心情や思考について多面的に考えていけるよう、話し合いの場を多く設ける。 ○自身を振り返る時間を多く設け、日常生活に結び付けて考えをまとめるようにする。
特別活動	○合意形成・自己肯定感を実践しながら、望ましい集団活動を通して、活動の目標を全員で作成し、その目標について全員が共通理解をもてるようにする。 ○教師が一人一人のよさや発想、取り組み等を認めながら、子供との信頼関係づくりを図る。	○学級のきまりや係活動等についての話し合いを通し、学級の一員としての自覚を高める。 ○学校行事へのめあてをもたせ、より良い学びと成長の機会となるよう工夫する。	○自分や友達の良いところを伝え合い、互いの良さを認め合う活動を通し、他者を思いやる心情を育てる。 ○学級での話し合いを通し、集団としての行事への参加の仕方を考え、学校全体への良い影響があることに気付かせる。	○最高学年としての自覚をもって、進んで学校行事に参加しようとする気持ちを育てる。 ○個々の役割を明確にしながら、学校行事への準備や計画に意欲的に参加し、より良い学校を作っていくこととする心構えをもたせる。
外国語活動	○クイズやゲームなどのアクティビティを中心に授業を組み立て、楽しみながら英語に触れ、英語を用いたコミュニケーションに親しめるようにする。	○身近な単語・題材・フレーズを選択して、児童が親しみをもって英語に触れることができるようにする。 ○歌やチャンツを組み入れ、リズムや体を動かすことで楽しみながら学習できるようにする。	○実生活や児童の興味のある事柄に関するスモールトークやクイズを導入で行う。 ○グループで個々の発表の原稿を読み合い、アドバイスをして改善するなどの活動を取り入れ、児童同士が互いに高めあう活動を取り入れる。 ○デジタル教科書やスライドの機能を使い、音声や動画などを活用して授業を行う。	